

Histological categorisation of the desmoplastic reaction is a predictor of patient prognosis in oesophageal squamous cell carcinoma

酒井，陽玄

<https://hdl.handle.net/2324/6758949>

出版情報 : Kyushu University, 2022, 博士（医学）, 課程博士
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



KYUSHU UNIVERSITY

氏名：酒井 陽玄

論文名：Histological categorisation of the desmoplastic reaction is a predictor of patient prognosis in oesophageal squamous cell carcinoma

(Desmoplastic reactionの組織学的分類は食道扁平上皮癌患者の予後予測因子である)

区分：甲

論文内容の要旨

【目的】Desmoplastic Reaction(DR：間質線維化反応)の組織学的分類は、大腸癌において独立した予後因子であることが報告されている一方で、食道扁平上皮癌(OSCC)においてはDR分類の意義は不明である。本研究は、OSCCにおけるDR分類の予後予測因子としての意義を評価することを目的とした。

【方法と結果】食道癌根治手術を受けたOSCC患者のうち、深達度T2以深の118名を対象とし、keloid-like collagenおよびmyxoid stromaの所見の有無により、Mature DRの49例、intermediate DRの41例、immature DRの28例に分類した。5年全生存(OS)率は、mature DR群で最も高く(42.8%)、intermediate DR群(25.0%)、immature DR群(19.9%)と続く結果であった($P = 0.022$, ログランク検定; $P = 0.006$, ログランク・トレンド検定)。5年疾患特異的生存(DSS)率も同様に、mature DR群で最も高く(48.5%)、intermediate DR群(30.8%)、immature DR群(26.8%)と続く結果であった($P = 0.031$, ログランク検定; $P = 0.010$, ログランク・トレンド検定)。多変量解析ではimmature DRがOSとDSSにおいて独立した予後不良因子であった($P = 0.002$ と $P = 0.004$)。

【結論】食道扁平上皮癌の切除標本で観察される間質でのDR分類は有用な診断ツールであり、独立した予後予測因子である